

経済学部A方式I日程・社会学部A方式I日程・現代福祉学部A方式

## 3 限 選 択 科 目 (60分)

科 目	ページ	科 目	ページ
政治・経済	2～20	日 本 史	22～38
世 界 史	40～60	地 理	62～70
数 学	72～74		

## 〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 試験開始後の科目の変更は認めない。
4. **数学**は以下の注意事項に従うこと。
  - ・解答用紙の所定の欄に受験学部を○で囲むこと。
  - ・解答はおもて面と裏面の所定の位置に記入すること。
  - ・解答を導く途中経過も書くこと。
  - ・その他、解答用紙に記載された指示にしたがい解答すること(この指示どおりでない場合は採点の対象としない)。
  - ・定規、コンパス、電卓の使用は認めない。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

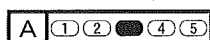
## マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

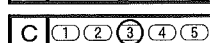
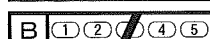
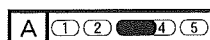
## 記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

# (日 本 史)

〔I〕 次の文章を読み、下記の問いに答えよ。

室町時代は、日本の伝統的な文化の原型が築かれた時代である。この時代において幕府が京都におかれたことや大陸との活発な交流にともなって、武家文化と公家文化、大陸文化と伝統文化の融合が進んだ。また、惣村と都市の民衆も交流し、中央と地方の融合が進み、日本全体に広がる幅広い文化が生み出された。しだいに、これらは洗練され、調和していくことによって日本固有の文化ともいべきものが形成されていった。今日、日本の伝統文化の代表とされる能・狂言・茶道・花道などが生まれ、中央・地方、武家・公家・庶民の別なく愛好され、発展したのである。

室町時代の文化の流れには、(A) 世紀末からはじまった北山文化と(B) 世紀後半の東山文化という2つの頂点がある。1つ目の頂点は、(C) 代将軍 (ア) が京都北山につくった華麗な別荘にちなんで北山文化とよぶ。この別荘である金閣(あ)の建築様式は、伝統的な(1)と禅宗様を折衷したものである。この様式にあらわれているように北山文化は、公家文化を基調にしつつ、大陸文化が大きな影響を及ぼした。

なかでもある国の官寺の制にならった五山・十刹の制が、ほぼ完成した。幕府は武家社会に広まった(2)を保護し、(イ)が初代将軍(ウ)の帰依をうけ大いに栄えた。京都五山は、天龍寺・相国寺・建仁寺・東福寺・(イ)で、(ウ)を五山の上に置いた。五山の僧には中国からの渡来僧や中国帰りの留学僧が多く、彼らは水墨画や建築・庭園様式などを広く伝えた。学問の研究や漢詩文の創作もさかんであり、(エ)、義堂周信らが出て、五山文学が最盛期を迎えた。

一方、能は、古くは神事芸能として出発した猿楽や田楽などから発展した。当初は、様々な芸能を含んでいたが、しだいに歌舞・演劇の形をとるようになった。この頃、寺社の保護を受けて能を演じる専門集団である座が現れた。なかでも

〔え〕を本所とした四座を〔3〕猿楽四座という。その中でも父の〔オ〕と子の〔カ〕は、芸術性の高い猿楽能を完成させた。父子は、能の脚本である〔4〕を数多く著した。また、子の〔カ〕は、能の真髄を述べた〔a〕をまとめた。

第2の頂点である東山文化は、〔D〕代将軍〔キ〕が、応仁の乱後京都の東山に山荘をつくり、そこに銀閣(〔お〕)を建てたことによる。この文化は、禅の精神にもとづく簡素さと伝統文化の幽玄・侘を精神的な基調としていた。銀閣の〔5〕および〔6〕同仁齋にみられる〔7〕は、近代の和風住宅の原型となった。この様式の住宅や禅宗様の寺院には、禅の精神で統一された庭園がつくられた。その代表的なものが、龍安寺・〔カ〕大仙院にある岩石と砂利を組み合わせる象徴的な自然を作り出した〔8〕である。

また、新しい住宅様式においては室内の装飾が発達し、掛軸・襖絵などの絵画、床の間を飾る生花・工芸品を発展させた。

日本の伝統文化を代表する茶道(茶の湯)、花道(生花)の基礎もこの時代につくられた。茶道では、〔ク〕が、禅と茶の精神を統合し、〔9〕を創出した。禅の影響により独特の哲学と美意識が茶の湯で実現された。

また、民衆が文化を集団で楽しむのも室町時代の特色である。より素朴で娯楽的な能が各地に根をおろし、風刺的な狂言をあいまにはさんで、民衆のあいだで演じられた。連歌は〔b〕を撰した〔ケ〕によって和歌と対等の地位を得て発展した。応仁のころ〔コ〕が〔c〕をまとめ、〔10〕を確立し、全国をめぐりその普及につとめた。その弟子と一緒にあらわしたものが〔d〕である。絵入りの短編物語である御伽草子も、人々のあいだで読まれ語りつがれた。この他に小歌などが楽しまれ、歌集として〔e〕が編集され、庶民が文芸にしたしむようになったのである。

日本史

問1 文中の空欄 (ア) ~ (コ) にあてはまる人物名を下記の a ~ x から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |        |        |        |         |
|--------|--------|--------|---------|
| a 足利義教 | b 二条良基 | c 村田珠光 | d 長谷川等伯 |
| e 足利義持 | f 足利義満 | g 宋鑑   | h 千利休   |
| i 足利義政 | j 後藤祐乗 | k 北畠親房 | l 観阿弥   |
| m 能阿弥  | n 夢窓疎石 | o 善阿弥  | p 如拙    |
| q 明兆   | r 足利義昭 | s 絶海中津 | t 宗長    |
| u 足利尊氏 | v 周文   | w 世阿弥  | x 宗祇    |

問2 文中の空欄 (あ) ~ (か) にあてはまる寺の名前を下記の a ~ l から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| a 建長寺 | b 浄智寺 | c 慈照寺 | d 浄妙寺 |
| e 鹿苑寺 | f 円覚寺 | g 寿福寺 | h 興福寺 |
| i 万寿寺 | j 南禅寺 | k 本願寺 | l 大徳寺 |

問3 文中の空欄 (a) ~ (e) にあてはまる作品名を下記の a ~ j から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |          |             |
|----------|-------------|
| a 『庭訓往来』 | b 『菟玖波集』    |
| c 『節用集』  | d 『新撰菟玖波集』  |
| e 『風姿花伝』 | f 『閑吟集』     |
| g 『応安新式』 | h 『水無瀬三吟百韻』 |
| i 『犬筑波集』 | j 『申楽談儀』    |

問4 文中の空欄 (1) ~ (10) にあてはまる語句を下記の a ~ t から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |        |         |        |
|--------|---------|--------|
| a 俳諧連歌 | b 臨濟宗   | c 大和   |
| d 曹洞宗  | e 枯山水   | f 鬪茶   |
| g 上層   | h 東求堂   | i 謡曲   |
| j 権現造  | k 書院造   | l 開山堂  |
| m 舞楽   | n 回遊式庭園 | o 寝殿造風 |
| p 下層   | q 正風連歌  | r 侘茶   |
| s 近江   | t 数奇屋造  |        |

問5 文中の空欄 (A) ~ (D) にあてはまる正しい数字の組み合わせを下記の a ~ f から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |          |        |       |       |
|----------|--------|-------|-------|
| a (A) 13 | (B) 15 | (C) 3 | (D) 6 |
| b (A) 14 | (B) 15 | (C) 3 | (D) 8 |
| c (A) 14 | (B) 16 | (C) 2 | (D) 7 |
| d (A) 14 | (B) 15 | (C) 2 | (D) 6 |
| e (A) 13 | (B) 14 | (C) 3 | (D) 8 |
| f (A) 12 | (B) 14 | (C) 2 | (D) 7 |

問6 下線部(i)の地域はどこか、あてはまる地域を下記の a ~ e から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |        |         |        |
|--------|---------|--------|
| a 東アジア | b 西アジア  | c 南アジア |
| d 北アジア | e 中央アジア |        |

問7 下線部(ii)のある国の国名を下記の a ~ e から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |     |      |      |
|-----|------|------|
| a 明 | b 北宋 | c 南宋 |
| d 唐 | e 元  |      |

## 日本史

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、下記の問いに答えよ。

江戸幕府が260年余りの長期にわたって維持できたのは、天皇・朝廷の権限を抑制するとともに、諸国の大名が秀でた武力や財力を持つことを厳しく統制し、幕府に権力を集中させることに成功したことが一因と言える。

江戸幕府が成立した初期、幕府は、大名の居城を一つに限ることや、武家諸法<sup>(a)</sup>度を制定して大名を厳しく統制した。その一方で、大名を將軍との親疎の関係で、親藩・譜代・外様にわけると巧妙に配置した。幕府の権力は、財政・軍事力<sup>(c)</sup>において諸大名に比べて大きく優越していた。3代將軍家光の時代には、幕府の職制<sup>(d)</sup>を定め、軍事指揮権を発動して、全大名を武力でしたがわせる方式により幕藩体制を固めていった。また、天皇と朝廷に対しては、天皇・朝廷がみずから権力をふるったり、大名に利用されることのないよう、天皇や公家の生活・行動<sup>(e)</sup>を規制し、京都に封じ込める体制をとった。

4代將軍家綱は、牢人の発生を防止するため、1の禁止の緩和や、すべての大名にいっせいに2を発給し、幕藩体制の確立につとめた。將軍と大名の関係が將軍優位に安定したのと同様に、大名と家臣の関係も大名優位に安定し、いくつかの藩では、藩主が儒学者を顧問<sup>(f)</sup>にして藩政の刷新をはかった。5代將軍綱吉の時代<sup>(g)</sup>には、儒教を支配の論理として重視し、將軍の權威を高めようとするとともに、朝廷の儀式をある程度復活させるなど天皇・朝廷の權威を利用した。

8代將軍吉宗は、綱吉以来続いた側近政治<sup>(h)</sup>を見直し、有能な人材を登用したり、幕府財政の再建をはかるなど、享保の改革<sup>(i)</sup>と呼ばれる幕政の改革につとめた。10代將軍家治の時代になると、側用人から老中となったAが実権をにぎり、ゆきづまった幕府財政のために、年貢徴税だけにたよらず、民間の経済活動を活発<sup>(j)</sup>にさせるなどの改革により、得られた富の一部を財源にとりこもうとした。11代將軍家斉の補佐として老中に就任したB<sup>(k)</sup>は、寛政の改革とよばれる一連の改革により、飢饉で危機におちいった財政基盤を復旧し、ゆるんだ士風をひきしめて、幕府の權威を再建しようとした。

家斉の死後、老中Cは、財政難と幕藩体制をゆるがす厳しい内憂外患

に対応するため、幕府権力の強化をめざして天保の改革とよばれる一連の改革を行なった。しかし、1843(天保14)年に出した<sup>(1)</sup>  は、諸大名や旗本が強く反発したため実施できず、改革自体も失敗に終わり、幕府権力の衰えを如実に示すこととなった。一方、諸藩においては、有能な人材を登用して財政の再建をはかり、藩権力の強化をめざす藩政改革を行なう藩があらわれた。社会の変化に即応し改革に成功した藩は、雄藩として幕末の政局に強い影響力を持つようになる。<sup>(m)</sup>

問1 文中の空欄  ,  ,  にあてはまる用語を下記のア～シから選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |          |        |         |
|----------|--------|---------|
| ア 場所請負制度 | イ 人掃令  | ウ 上知令   |
| エ 撰銭令    | オ 惣無事令 | カ 末期養子  |
| キ 半済令    | ク 村請制  | ケ 領知宛行状 |
| コ 寄親・寄子制 | サ 分割相続 | シ 地方知行制 |

問2 文中の空欄  ,  ,  にあてはまる人物名の組み合わせとして正しいものを下記のア～カから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |          |        |        |
|----------|--------|--------|
| ア A 水野忠邦 | B 田沼意次 | C 松平定信 |
| イ A 田沼意次 | B 松平定信 | C 水野忠邦 |
| ウ A 松平定信 | B 水野忠邦 | C 田沼意次 |
| エ A 田沼意次 | B 水野忠邦 | C 松平定信 |
| オ A 松平定信 | B 田沼意次 | C 水野忠邦 |
| カ A 水野忠邦 | B 松平定信 | C 田沼意次 |

## 日本史

問3 下線部(a)についての説明として誤っているものを下記のア～オから二つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 家康が南禅寺金地院の崇伝に起草させ、将軍秀忠の名で元和令を發布した。

イ 大名が新たに築城する際には、幕府の許可が必要とされた。

ウ 福島正則を違反で改易するなど、長く功績のあった大名を処分できる将軍の力量を示した。

エ 家光のときに大幅に改正され、以後将軍の代替わりごとに少しずつ修正して発令された。

オ 徹底化がはかられたため、江戸時代の初期に処分された大名は少なかった。

問4 下線部(b)の説明として誤っているものを下記のア～オから二つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 有力な外様は、その動向を監視するためになるべく江戸の周辺に配置された。

イ 譜代は、はじめから徳川氏の家臣であった大名であり、将軍直属の重職に任じられた。

ウ 外様は、大坂の役前後に徳川氏に従った大名である。

エ 加賀の前田藩は、外様大名である。

オ 親藩は、尾張・紀伊・水戸の3藩など徳川家一門の大名からなっていた。



問5 下線部(c)の説明として誤っているものを下記のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 諸大名には、平時には江戸城などの修築や河川の工事などを普請役として負担させた。

イ 旗本や御家人は、将軍に謁見を許された将軍直属の家臣団として、江戸に住み軍役を負担した。

ウ 江戸・京都・長崎などの重要都市を幕府の直轄領とし、商工業者や貿易を統制した。

エ 佐渡・伊豆・但馬生野など直轄の主要鉱山からの収入も有力な財源となった。

問6 下線部(d)の説明として誤っているものを下記のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 老中と呼ばれる重臣が政務を統轄し、若年寄が老中を補佐し旗本を監督した。

イ 役職をまたがる事項などの訴訟は、評定所で老中・三奉行が合議して裁決した。

ウ 幕府の要職には、原則として複数が任命され月番交代で政務を行い、重要判断は合議制とされた。

エ 寺社奉行・町奉行・勘定奉行の三奉行は、将軍直属とされ譜代大名から任命された。

## 日本史

問7 下線部(e)の説明として誤っているものを下記のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 朝廷と幕府をつなぐ窓口として、親藩大名から選ばれた武家伝奏が公家を監察した。
- イ 京都所司代に朝廷を監視させるとともに、1615(元和元)年禁中並公家諸法度を制定し、朝廷統制の基準を明示した。
- ウ 徳川秀忠の娘和子を後水尾天皇に入内させたのを機に、官位制度や改元など朝廷に残された権能を、幕府の承諾を必要とすることとした。
- エ 幕府が大徳寺の沢庵を処罰した紫衣事件は、幕府の厳重な朝廷統制のきっかけとなった事件である。

問8 下線部(f)にあてはまる藩主と藩、儒学者の組み合わせとして誤っているものを下記のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 前田綱紀 — 加賀藩 — 木下順庵
- イ 徳川光圀 — 水戸藩 — 朱舜水
- ウ 池田光政 — 土佐藩 — 熊沢蕃山
- エ 保科正之 — 会津藩 — 山崎闇斎

問9 下線部(g)の説明として誤っているものを下記のア～オから二つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 神道の影響から生類憐みの令を出し、死や血を忌みきらう風潮をつくり出した。
- イ 天皇即位の儀式の一つである大嘗祭が再興された。
- ウ 勘定吟味役萩原重秀の上申によって貨幣の改鋳を行ったことにより、貨幣価値が減り物価の高騰を引き起こした。
- エ 明暦の大火による江戸城と市街の再建費用、あいつぐ寺社造営費が幕府財政の破綻を招くこととなった。
- オ 古義堂を建て、林信篤を大学頭に任じて、儒教を重視した。



## 日本史

問13 下線部(k)の説明として誤っているものを下記のア～オから二つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 町々に町費節約を命じ、節約分の5割を積み立てさせ、各地に社倉・義倉をつくり米穀をたくわえさせた。
- イ 尊号一件と呼ばれる朝廷との問題で公家を処分したことによって、幕府と朝廷の協調関係がくずれた。
- ウ 両替商を中心とする豪商を幕府に登用し、その力を利用して改革を進めた。
- エ 旧里帰農令により、正業を持たないものに資金をあたえて農村に帰ることを奨励した。
- オ 小石川養生所をつくって、無宿人を強制的に収容し、技術を身につけ職業を持たせようところみた。

問14 下線部(1)の説明として誤っているものを下記のア～オから二つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 川越・庄内・長岡3藩の領知をたがいに入れ換えることを命じたが、領民の反対もあって撤回された。
- イ 物価の引き下げを期待し札差の解散を命じたが、江戸への商品輸送量が減り、逆効果となった。
- ウ 江戸に流入した貧民の帰郷を強制する人返しの法を發し、荒廃した農村の再建をはかろうとした。
- エ 関東の農村で治安の乱れが生じたため、関東取締出役を設けて、犯罪者の取り締まりにあたらせた。
- オ 儉約令を出して、ぜいたく品や華美な衣服を禁じ、庶民の風俗もきびしく取り締まった。

問15 下線部(㉓)について、藩と人物の組み合わせとして誤っているものを下記の  
ア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 肥前藩 — 鍋島直正

イ 土佐藩 — 松平春嶽

ウ 長州藩 — 村田清風

エ 薩摩藩 — 調所広郷

## 日本史

〔Ⅲ〕 次のA～Gの文章は明治期の外交について説明した一つながりの文章である。  
これを読み、下記の問いに答えよ。

A 明治政府は発足してすぐに、徳川幕府が諸外国と結んだ不平等条約の改正にとりくんだが、その道は厳しかった。

1871年、(ア) を大使とする使節団が海外に派遣され、まず (あ) と交渉したが目的を達成することはできなかった。

1876年から外務卿の (イ) が、(あ) と交渉して (1) の交渉にほぼ成功したが、(い) ・ (う) などの反対で無効となった。

B 1882年、外務卿(のち外務大臣)の (ウ) は、東京に列国の代表を集めて予備会議を開き、ついで1886年から正式会議に移った。その結果1887年には、(2) を実施するかわりに、(3) を原則として実現する改正案が、諸国より一応了承された。しかしこの改正案については、(4) という条件などもついていたので、国家主権の侵害であるとの批判が政府部内でも起こり、改正交渉に反対する政府内外の声が強くなり、交渉は中止された。

C そのあとを受けた (エ) 外相は、条約改正に好意的な国から個別に交渉を始め、(あ) ・ (う) ・ (え) とのあいだに改正条約を調印した。しかし条約正文以外の約束として、(5) が決められていたことがわかると、政府内外に強い反対論が起こり、(エ) が襲撃される事件が起こり、改正交渉はまた中断した。

D その後、 は  を警戒して、日本に好意的になり、相互対等を原則とする条約改正に応じる態度を示したが、改正交渉は諸事件の中で、実らなかった。

1894年になって、ようやく、 外相のとき、 の実現と  の一部実現、および  を内容とする  との通商航海条約の調印に成功した。ついで、他の諸国とも改正条約が調印され、1899年から同時に施行された。

E その後、日本は  と同盟を結び、日本の利権をおびやかすようになった  の影響を抑えようとしたが、交渉はまとまらず  と戦争になる。

この戦争のあと、すでに1899年から実施されていた複数国との通商航海条約が満期を迎えることになっていた1911年、日本は  外相のもとで、これらの条約について、 にも成功し、懸案だった不平等条約の改正を達成した。

F 明治政府はこのような既存の不平等条約の改正に取り組む一方で、他の国々と、外交のための新たな条約を締結することにも取り組んだ。1871年には  に使節を派遣して条約を結び、相互に開港し、 などをさだめた。これは日本が外国と結んだ最初の対等条約であるが、日本はこれに不満で、1873年によりやく批准した。

## 日本史

G 明治政府はまた、発足とともに  に国交樹立を求めたが、鎖国政策をとっていた同国は、日本の交渉態度を不満として正式な交渉に応じなかった。海外に使節団が派遣されていたため、留守政府首脳となっていた  ( と同じ藩出身)・ らは1873年、同国にさらに開国をせまり拒否された場合には武力行使も辞さないという強硬策をとるが、帰国した  らの強い反対にあつて挫折した。その後、日本の軍艦雲揚が同国の首都近くの島で同国を挑発し、これは戦闘に発展した。この事件を機に日本は同国に迫り、翌1876年に条約を結び、同国を開国させた。この条約は、日本に有利な諸条件を認めさせる、相手国にとっての不平等条約であった。

問1 文中の空欄  ～  にあてはまる国名を下記の a～o から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |        |         |          |       |
|--------|---------|----------|-------|
| a アメリカ | b イギリス  | c オランダ   | d カナダ |
| e 清国   | f タイ    | g 台湾     | h ドイツ |
| i 朝鮮   | j スペイン  | k オーストリア | l ビルマ |
| m ベトナム | n ポルトガル | o ロシア    |       |

問2 文中の空欄  ～  にあてはまる人物名を下記の a～m から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |         |        |        |         |
|---------|--------|--------|---------|
| a 伊藤博文  | b 板垣退助 | c 岩倉具視 | d 大久保利通 |
| e 小村寿太郎 | f 西郷隆盛 | g 寺島宗則 | h 山県有朋  |
| i 井上馨   | j 青木周蔵 | k 大隈重信 | l 松方正義  |
| m 陸奥宗光  |        |        |         |



問3 文中の空欄 (1) ~ (7) にあてはまる事柄を下記の a ~ g から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 外国人内地雑居を認可すること
- b 相互対等の最恵国待遇
- c 相互に領事裁判権を認めあうこと
- d 大審院への外国人判事の任用を認可すること
- e 領事裁判権の撤廃
- f 外国人を被告とする裁判には半数以上の外国人判事を採用すること
- g 関税自主権回復

問4 下線部(a)について(1)(2)の問いに答えよ。

(1) 1858年にハリスに迫られて通商条約の調印を断行した人物は誰か。あてはまる人物名を下記の a ~ g から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 阿部正弘      b 安藤信正      c 堀田正睦      d 水野忠邦
- e 松平慶永      f 井伊直弼      g 新見正興

(2) 上記(1)の条約批准のため外国奉行らが相手国に渡ったが、このときこれに随行した幕府の軍艦の艦長を務めた人物は誰か。あてはまる人物名を下記の a ~ f から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 伊能忠敬      b 勝海舟
- c 坂本龍馬      d ジョン万次郎
- e 間宮林蔵      f 榎本武揚

日本史

問5 下線部(b)について、下記の a～j の中で、この使節団に同行していた人物は誰か。あてはまる人物を二人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |        |          |        |
|--------|----------|--------|
| a 山川捨松 | b 与謝野晶子  | c 管野スガ |
| d 樋口一葉 | e 柳原白蓮   | f 市川房江 |
| g 新島八重 | h 平塚らいてう | i 津田梅子 |
| j 景山英子 |          |        |